

# 第四系コア観察カード

調査名		XXXXXXXXXX			孔番	H27 B-3	観察日	XXXXXX
標尺 (m)	深度 (m)	イベント・地層境界	スケッチ	マーカ-		地質名	色調	堆積構造・特徴等
				火山灰物 山質土 化石 木片	or // ○ □			
4								
	0.5							
	5							
	5.27							
	5.60							
	6							
	6.5							
	7							
	7.07							
	7.5							
	8							
	8.7							
	9							
	9.5							
	10							
	10.5							
	11							
	11.5							
	12							
	12.5							
	13							
	13.5							
	14							
	14.5							
	15							
	15.5							
	16							
	16.5							
	17							
	17.5							
	18							
	18.5							
	19							
	19.5							
	20							
	20.5							
	21							
	21.5							
	22							
	22.5							
	23							
	23.5							
	24							
	24.5							
	25							
	25.5							
	26							
	26.5							
	27							
	27.5							
	28							
	28.5							
	29							
	29.5							
	30							
	30.5							
	31							
	31.5							
	32							
	32.5							
	33							
	33.5							
	34							
	34.5							
	35							
	35.5							
	36							
	36.5							
	37							
	37.5							
	38							
	38.5							
	39							
	39.5							
	40							
	40.5							
	41							
	41.5							
	42							
	42.5							
	43							
	43.5							
	44							
	44.5							
	45							
	45.5							
	46							
	46.5							
	47							
	47.5							
	48							
	48.5							
	49							
	49.5							
	50							

スケッチ: 礫はクサリ ● 半クサリ ○ 硬質 ○ 礫種は黒雲母花崗岩Gr, 花崗斑岩Gp, アプライトAp 等  
境界 明瞭 — 不明瞭 - - - 亀裂は赤線, 角度, 条線等

# 第四系コア観察カード

調査名		孔番		観察日			
		H27 B-3					
標尺	深度	イベント・地層境界	スケッチ	マーカ	地質名	色調	堆積構造・特徴等
(m)	(m)			火山灰物 土質土 炭土 貝化石 木片			
8	8.01	8.01					
	8.37	9			盛土	10YR 7/4 2.5Y 5/1 10YR 7/2	8.01 ~ 8.37 m: 砂 8.37 ~ 10.05 砂層 9.21 ~ 9.66 腐食土 鉄屑 骨材 埋石 (一部は砂細骨材 埋石) 9.66 ~ 10.03 砂土 埋石 (兼)
9	9.21	9.21					
	9.66	9.66					
10	10.05	10.05					
12							

スケッチ: 礫はクサリ ● 半クサリ ◐ 硬質 ○ 礫種は黒雲母花崗岩 Gr, 花崗斑岩 Gp, アプライト Ap 等  
境界 明瞭 — 不明瞭 - - - 亀裂は赤線, 角度, 条線等

# 基盤岩コア観察カード

記事・破砕性状・詳細スケッチ等

(着目) 「相対的剥離カード」参照

標尺 10 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分				最大コア長 ROD	岩級区分	破砕度区分
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化 変質			
	10.05										
05					✓	✓	δ	2			
11								10	4	CL	
	11.20										
05					✗	✗	γ	2			
	11.82										
	12.00				✗	✗	δ	3			
12								10	7		
05			Gp	久野R 7/2 明揚灰	✗	✗	γ	2			
	12.96				✗	✗			10	9	
13											
05					✗	✗	δ	3		D	
	13.64				✗	✗					
14											
05					✗	✗	δ	2		CL	
	14.30				✗	✗					
	14.62				✗	✗	δ	3		D	
					✗	✗					
15											
					✗	✗	δ	2		CL	

41~3% 石英、長石と斑岩とある花崗斑岩 (Gp)。長石は白濁化が少なく。

10.05 ~ 12.96 m: CL

- 10.05 ~ 11.20 m: 硬さ「c」部で、上端部の 10.05 ~ 11.20 m と中部の 11.82 ~ 12.00 m は同化の進んだ硬さ「c」部。
- 硬さ「c」部の一部で割れ目に挟持物を含まない部分あり。硬さ「c」部は同化の進んだ硬さ「c」部と異なる。
- 長石は多く白濁化している。
- 10.70 ~ 10.80 m: 硬さ「c」の硬質部が残留。
- 11.20 ~ 11.82 m: 硬さ「c」部で挟持物が多い。一部は容易度の低い割れ目と含まれる。
- 11.40 ~ 11.55 m: 割れ目の変遷。岩片化が顕著な岩化は伴わない。
- 11.82 ~ 12.00 m: 上部位に軽化部。下部の 11.97 ~ 12.00 m は粘土の進入部。
- 12.00 ~ 12.96 m: 硬さ「c」部で硬さが割れ目の厚さ 1% 程度と薄く軟化部が多い。また、割れ目は軽度 12% 程度で、下の一部は黒色化部。

12.96 ~ 14.62 m: D, CL

- 上端部と下端部は D 部。中部は CL 部の中石の 12% 程度。
- D 部は硬さ「E」部で、岩組織が割れ目と残留 (2%) と全体の軽化が顕著。例えば、厚さの粘土と 5% 前後の斑岩点は、幅 1~3% の脈状に含まれる。
- 13.64 ~ 14.30 m: 硬さ「c」部全体で 20 ~ 30% の容易度の低い割れ目と同様に、1 ~ 2 cm の間隔で分布。
- 14.22 m: 45° 幅 1 cm 程度、石英と粘土と 20% 程度 (2%) 程度 80% 幅 1% 石英と粘土と (石英 47%、粘土 2%)。
- 14.30 ~ 14.62 m: 上端部 17° 幅 1 cm 程度、軟質部と粘土。下部 50% 割れ目で、割れ目の軽化 (2%) 一部は硬さ「E」部残留。岩組織が割れ目は粘土に残留 (2%)。2% 幅 1~2% の石英と粘土と脈状に含まれる。

14.62 ~ 20.04 m: CL

- 20 ~ 40% 割れ目全体で、割れ目の軽化が顕著。粘土 (2%) 部分は含まれる。

調査名

孔番・深度

H27 B-3 (15 ~ 20)

観察日

# 基盤岩コア観察カード

記事・破砕性状・詳細スケッチ等

標尺 1/5 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分					最大コア長	岩級区分	破砕度区分
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化	変質			
0.5	15.33				✓	✓	D	δ	2			
	15.43				2	V	E	ε	3			
16				2.5YR 7/2 明褐灰	✓	✓	D	δ	2	10	10	C2
0.5	16.49				X		X	X				
17			Gp							10	7	
	17.13											
	17.31				C	V	C	δ	3		2	
0.5	17.50											
18				2.5YR 7/3 1.5mm 橙	X	X	A	X		10	8	C2
0.5	18.04											
	18.43											
19				2.5YR 7/2 明褐灰	✓	✓	C	δ	2	10	5	
0.5												
20												

・上端側の15.49m以下は硬2C主体、16.49m以降は硬2C主体である。

・15.33~15.43m、風化の顕著化と含水率増加の顕著化で軟化部あり。上端側の35m前後の割れ目あり。

・15.73~15.80m、80割れ目幅、5~15mm 中国結核 白色塊あり。

・16.31m、50割れ目幅 5~15mm 中国結核 白色塊あり。

・16.49m、35割れ目以下は硬2C主体、一部に高濃度の鉄の割れ目を含んでいる。

・16.76~16.87m 中10~20%の岩片を呈し、岩片の幅1~2%程度砂状化

・17.13~17.31m、割れ目の一部は幅1~2%の軟質灰白色粘土状である。

・17.40~18.00m、高濃度の鉄の風化割れ目を含む、一部の割れ目には割れ目の一部は分離、細粒化する。鉄の割れ目代り、同じく鉄の多い。

・18.05~18.07m 酸化変質に鉄の量多量に硬化する。

・18.43~20.04m 一部の割れ目幅は高濃度の鉄の塊状変質、高濃度の鉄の塊状変質は伴わない。

・18.90m、50割れ目幅 1~5mm 菱角状の塊あり。

・19.59m、40と80割れ目の変質、80割れ目は40割れ目より粗粒である。

・80割れ目は19.65m 幅10% 砂状化部を伴う。下部は19.65mより割れ目の閉じが行き、砂の塊状物質の分布は少ない。



# 基盤岩コア観察カード

記事・破砕性状・詳細スケッチ等

標尺 20 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分				最大コア長 ROD	岩級区分	破砕度区分	記事・破砕性状・詳細スケッチ等
					割れ目状態	コアの形状	コアの傾き	風化				
	20.04			2.5YR 7/2 明褐灰	✓	✓	✓	δ	2		C <sub>1</sub>	20.04 ~ 20.93 m : CM 一部は垂直度。他の割れ目と含む。岩片は堅硬。 長石の一部は自溶跡が。未変質の粘岩質の多い。 割れ目充填物はほとんど分布しない。
0.5	20.15			2.5YR 7/3 明橙	✓	✓	✓	β	γ	2	CM	
2.1	20.93								24	14		20.93 ~ 26.70 m : C <sub>2</sub> 45°前後の割れ目主体。一部は70~90°の高角度割れ目と 交差。 割れ目に薄く砂状化跡あり。部分的に砂状化の拡大部分 部分で含む。 粗さ幅1~2% 軟質白色粘岩質に付着。 上端部の22.69 m 付近は硬土D、22.69~23.71 m は 硬土C、23.71 m 付近は硬土D 主体で、硬土C 主体の部分では割れ目の充填物に分布しているものが多い。 21.55~21.65 m 付近に砂状化部と硬土Cと硬土D 岩片の 砂状化を呈す。粘土はほとんど伴わない。 21.70~22.40 m 高角度割れ目主体で、厚さ1%以下で2% 厚さ2%の粘岩質中幅1~2%の軟質白色粘岩質に分布。 22.03~22.63 m、70~90°の弯曲した連続する割れ目に 幅5~10%の砂状化。幅1~2%の軟質粘岩質に付着。 22.10~22.45 m、一部に硬土C 部分付着。 22.50~22.64 m、上端60°幅2~3%粘岩質、下端45° 幅1%粘岩質に付着して軟化著しく、一部は幅2.5%の 白色粘岩質に付着している。 22.91~23.41 m、45°前後の割れ目が同方向に分布。これら に垂直な60°前後の80~90°割れ目も認められる。 23.45~23.71 m に幅1~3% 軟質白色粘岩質に付着。80° 割れ目の分布。 23.71 ~ 24.53 は軟化土(硬土D) 主体。 23.71 ~ 23.95 m、80~90°の高角度割れ目は2.5%粘岩質に 24.06 ~ 24.22 m は硬土C 主体 24.37 m、45°厚さ2%粘岩質 24.53 ~ 26.70 m は硬土C 主体 上端の割れ目がやや付着の多い割れ目 24.60~24.72 m、80~90°厚さ1~5%の2.0%粘岩質に 厚粘岩質に付着。
0.5	21.27				✓	✓	✓	δ	2		C <sub>2</sub>	
2.2	21.27		Gp	2.5YR 7/2 明褐灰					0	3		
0.5	22.69											
2.3	22.69								0	5		
0.5	23.71				✓	✓	✓	β	γ	2		
2.4	23.71				✓	✓	✓	δ	2		C <sub>2</sub>	
0.5	24.53				✓	✓	✓	β	γ	2		
2.5	24.53				✓	✓	✓	δ	2			

返却

調査名

孔番・深度 H-7 B-3 (25 ~ 30)

観察日

# 基盤岩コア観察カード

記事・破砕性状・詳細スケッチ等

A.V. 25.09 ~ 25.28<sup>m</sup>

標尺 25 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分				ROD	最大コア長	岩級区分	破砕度区分	記事・破砕性状・詳細スケッチ等
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化					
													25.00 ~ 25.80 <sup>m</sup> 割れ目大層 1 ~ 2% 一部は粘土の膠結による。一部は月化による。粘土の割合も認められる。
	25.80			2.5YR 7/2 明褐色	✓	✓	✓	Y	2				25.80 m 深部の割れ目多くなる。割れ目には粘土の膠結が認められる。
26									18 19				26.22 ~ 26.50 m 割れ目は変質時の高角度割れ目である (長さ 5%)
	26.70												
	26.90		Gp	2.5YR 7/2 ~ 7.5YR 7/2 TR白	✓	✓	✓	Y	4		Hc-1 Hb	● 26.70 ~ 26.90 m : 破砕帯 (主断面 26.70 m) 26.70 m : Hc-1 43° 上下端は連続的に連続。石英粒、粘土を含む軟質粘土 (5%)。色調は黄褐色 (2.5YR 7/2)。厚さ 1 mm 以下 26.70 ~ 26.90 m : Hb 上端 43° 連続的に、下端 54° まで連続して連続。φ 2 ~ 3 μm 石英粒、45 ~ 100 μm 粘土と石英の割合 20 ~ 30% 含む軟質粘質粘土状に呈す。下端は厚さ 1 ~ 2 mm の粘土状。色調は灰白 (2.5YR 7/2 ~ 7.5YR 7/2)。厚さ 160 ~ 180 μm	
27	27.00			7.5YR 7/2 明褐色	✓	✓	✓	Y	3		DV	● 26.90 ~ 27.57 m : D 27.00 m 以下は粘質粘土、27.00 m 以下は粘質粘土と石英の割合 20 ~ 30% 含む軟質粘質粘土状に呈す。色調は灰白 (2.5YR 7/2 ~ 7.5YR 7/2)。厚さ 160 ~ 180 μm 27.00 m 以下は粘質粘土の基質と石英の割合 20 ~ 30% 含む軟質粘質粘土状に呈す。色調は灰白 (2.5YR 7/2 ~ 7.5YR 7/2)。厚さ 160 ~ 180 μm	
	27.57												
28	28.12								0 5				27.57 ~ 28.12 m : C2 粘土の割合 10% 以下。全体の石英粒は 10% 以下に呈す。割れ目は粘土の割合 10% 以下に呈す。
	28.14												
	28.25												
29	28.10 28.11 28.12												● 28.12 ~ 28.14 m : 破砕帯 (主断面 28.12 m) 28.12 m : Hc-1 43° 上下端は連続的に連続。φ 1 μm 石英粒と石英の割合 (5%) 含む軟質粘土 (5%)。色調は黄褐色 (7.5YR 7/2)。厚さ 1 ~ 3 μm 28.12 ~ 28.14 m : HJ 上端 43° 連続的に、下端 45 ~ 55° まで連続して連続。粘土と石英の割合 10% 以下。粘土は 10 ~ 20 μm の割合に呈す。色調は灰白 (7.5YR 7/2)。厚さ 1 ~ 3 μm
	28.85												
	29.10 29.11 29.12												● 28.14 ~ 29.10 m : C1 粘土の割合 10% 以下。全体の石英粒は 10% 以下に呈す。割れ目は粘土の割合 10% 以下に呈す。色調は灰白 (7.5YR 7/2)。厚さ 1 ~ 3 μm
30	30.00								0 4				● 29.10 ~ 29.12 m : 破砕帯 (主断面 29.10 m) 29.10 ~ 29.11 m : Hc-1 上端 49° 連続的に、下端 50° まで連続して連続。φ 1 μm 石英粒と石英の割合 (5%) 含む軟質粘土 (5%)。色調は、上端側は灰白 (10YR 7/2)、中央は灰褐色 (10YR 4/2)、下端側は灰褐色 (10YR 4/2) の粘土に呈す。厚さ 5 ~ 10 μm 29.11 ~ 29.12 m : Hb 上端 50°、下端 45 ~ 50° まで連続して連続。φ 1 ~ 2 μm 石英粒、φ 3 ~ 5 μm 粘土と石英の割合 20% 程度を含む軟質粘土状に呈す。色調は利の粘土に呈す (7.5YR 7/2)。厚さ 9 ~ 11 μm

調査名

孔番・深度

H27 B-3 (30 ~ 35)

観察日

# 基盤岩コア観察カード

記事・破砕性状・詳細スケッチ等

標尺 30 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分					最大コア長	岩級区分	破砕度区分
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化	変質			
31	30.02		Gp	7.5YR 1/2 明褐色	○	IV	C	γ	2	36	26	C2
	30.45				○	IV	C	γ	2			
32	30.56		Gp	7.5YR 1/2 明褐色	○	IV	C	γ	2	40	17	C4
	32.21				○	IV	C	γ	2			
33	32.21		Gp	7.5YR 1/2 明褐色	○	IV	C	γ	2	10	10	C4
	33.09				○	IV	C	γ	2			
34	33.09		Gp	7.5YR 1/2 明褐色	○	IV	C	γ	2	0	5	C2
	34.20				○	IV	C	γ	2			
35	34.20		Gp	7.5YR 1/2 明褐色	○	IV	C	γ	2	0	9	C4
	35.94				○	IV	C	γ	2			

30.55m 地層割れ目とC1に交代の砂状化の部分がある。密度の低い部は、中層割れ目が多い。  
29.15~29.60m  
30.30~30.56m 割れ目とコアの一部は、軽微なマクロ破砕を受けた。

30.56~32.21m: C4  
堅硬 割れ目状物は一部を降ろす分布する。割れ目とコアの一部は軽微なマクロ破砕を受けた。岩化は伴わない。  
コア中には密度の低い割れ目と中層割れ目10%ほど分布する。

31.30m 付近は割れ目が交差し、短柱状(10μm以下)に碎けた。

31.62~31.66m 上下端は50割れ目に固まり軟化した。上下端は長さ幅2%、0.5%の軟質褐色粘土付帯している。

32.11m, 40割れ目は2μm厚15~20%の緑泥石化し、色調は淡緑灰色化する。中2.5%以下の微細な付帯している。岩化は粘土は存在する。

32.21~33.09m: C4  
一部は短柱物に碎けた。2割れ目と割れ目の主体。密度の低い割れ目と付帯する。一部は開口化した。

33.30~33.53m 割れ目とコアの一部はマクロ破砕を受けた。岩化は伴わない。  
32.53m, 40厚2%の軟質褐色粘土付帯。30上下端には粘土10%程度の割れ目が分布する。

33.09~34.20m: C2  
60~70%の高度割れ目が多い。一部は分岐~4μmに降ろす。この割れ目はマクロ破砕で幅1~2%の軟質白色粘土と脈状に付帯している。粘土は砂状化が粘土の部分を占める。

33.70m 以下は2割れ目の割れ目を含む付帯している。

34.20m, 40割れ目は厚2~3%、粘土は白色粘土付帯している。

34.20~35.94m: C4  
粘土の割れ目に短柱物は分布する。岩化の一部を含む。軽微なマクロ破砕を受けた。岩化は伴わない。  
密度の低い割れ目と中層割れ目が多い。白濁化の石英が多い。

調査名

孔番・深度

H27 B-3 (35 ~ 40)

観察日

# 基盤岩コア観察カード

記事・破砕性状・詳細スケッチ等

標尺 35 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分				最大コア長	岩級区分	破砕度区分	記事・破砕性状・詳細スケッチ等	
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化					変質
	05			2.5YR 6/2 灰褐色	✓ b	✓ IV	✓ C	Y	2		CM	35.31m 60°割れ目厚さ3~5%の酸化	
	35.94				X			X	8	8		35.47m 50°割れ目厚さ90%割れ目の酸化(変位量不明)	
	36			2.5YR 6/3 灰褐色	✓ b	✓ III	✓ B	β	2		CH	35.99 ~ 37.30m = CH 堅硬、割れ目状態の分布(なし) 36.07 ~ 36.32m 割れ目と岩芯の一部でモンペライトを 含む酸化は伴わない。しかし、密着度の低い割れ目の 区間内に数本分布する。	
	05				✓ b	✓ III	✓ B	β	2		CH		
	36.80								4.3	1.9			
	37		Gp									37.03m 50°割れ目厚さの一部で厚さ3%前後の酸化を伴 化する。この50°割れ目は変位割れ目と推定(変位量不明)	
	37.30				X			X			CM	37.30 ~ 37.55m = CM 適位以上の岩片の酸化あり。	
	05			2.5YR 6/2 灰褐色	✓ b	✓ IV	✓ C	Y	2		CM	37.55 ~ 37.69m = CL 上下部E202脈に同様な酸化の進入を認め、20%程度の酸化あり。	
	37.69				✓ c	✓ IV	✓ B	δ	2		CL	37.69 ~ 37.81m = D 50~60°割れ目厚さ酸化の酸化進行。厚さ以下の飽和酸化あり。	
	37.81				X			E	3		DV	37.81 ~ 38.50m = CL 38.21m以下では50°前後の割れ目厚さ酸化の酸化進行。 酸化量の多い割れ目には粘り質の付着も伴う。 厚さ2~3%	
	05				✓ b	✓ IV	✓ B	Y	2	16	16	CL	
	38.21				X			δ	3				
	05				X							38.50 ~ 39.14m = CM 一部で中層割れ目を含む。密着度は高く、酸化の進行も 多量に酸化あり。	
	38.50				✓ b	✓ IV	✓ B	Y	2		CM		
	39								10	10			
	39.74				X			X				39.14 ~ 40.77m = CL 密着度の低い割れ目E202を含む。酸化の進行も 多量に酸化あり。 割れ目には粘り質の付着も認められる。	
	05				✓ c	✓ IV	✓ C	Y	2		CL		
	40								10	10			

調査名

孔番・深度

H27 B-3 (40 ~ 45)

観察日

# 基盤岩コア観察カード

記事・破碎性状・詳細スケッチ等

標尺 40 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	細区分						最大コア長	岩級区分	破碎度区分	
				色調	割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化	変質				
	40.10			2.5YR 6/2 灰緑	✓c	✓iv	✓c	γ					40.14 ~ 40.26 m: 50~60°割れ目に厚さ1~2%の軟質粘土付はむ。
	40.42				x								40.42 m 以下は 岩片自身の軟化の進行、割れ目による軟化も認められる。
	40.79				✓c	✓v	✓b	δ	2				40.79 ~ 41.03 m: CM 一部割れ目と隙間、割れ目の挟み物も分布している。
41					✓b	✓iv	✓c	γ					41.30 m 以下は 粘着度の低い割れ目が多い。一部では 2%に達している。 41.30 m: 60°割れ目を中心に 2~4%の石英の多量結晶(2%)
	41.03												41.03 ~ 41.95 m: D 上端60°、下端55°割れ目に固結した砂状化岩、割れ目縁部には不明礫化
	41.95												41.95 ~ 42.70 m: cc 割れ目の多くは、粘土付の薄層に認められる。 厚い部分で白濁化している。 42.36 ~ 42.40 m 以下は 下端部 40°割れ目に固結した砂状化、 割れ目は 直下の破砕帯と同一断面と同方向の 40~50°割れ目の主体
42			Gp	7.5YR 7/2 明褐灰	✓c	✓v	✓c	γ	3				42.70 ~ 42.85 m: b 風化程度は 軟化部が、岩組織中に割れ目の一部は残存している。 42.85 ~ 42.91 m: 破砕帯 (主断面 42.85 m)
	42.85				✓c	✓v	✓c	γ	3				42.85 ~ 42.87 m: Hc-2 上端 45°(直線状)、下端 41°(波打)で連続、φ1~2mm 石英粒、 4.5% 粘土付厚さ 20% 程度を含む 平均粒状粘土(0.5%)。 上端 1~2% は風化で褐色化(明褐灰: 10YR 6/2)あり。 色調は 灰白(2.5Y 8/1)、厚さ 1.5~2.5mm
	42.87												42.87 ~ 42.91 m: Hj 上端 41°、下端 60°の 45°傾きの波打で連続、下端は不明礫部を含む。 4.5~10% の粘土付硬さ 2% 程度の砂、岩片の一部は 粘土付 1~2mm 白色軟質粘土付が分布している。全体に粘土付の砂状化岩片が認められる。色調は明褐灰(7.5YR 7/2)、厚さ 60mm
43					✓c	✓v	✓c	γ	3				42.91 ~ 43.00 m: D 粘着状の塊状と呈する。岩組織と割れ目は 崩壊した 白色粘土付砂状化岩片。
	43.00												43.00 ~ 43.17 m: cL 割れ目による砂状化岩片。白色粘土付砂状化岩片。
	43.17												43.17 ~ 45.66 m: CM 硬さ cL と主成分が、一部は硬さ B の堅硬な粒状の集合体。 割れ目の一部は 40~50°の粘土付の薄層と粘土付の、挟み物 の割れ目の主体。面は薄く粘土付の多いが、硬化はしている。 一部は 45°割れ目の集合体。粘着度は高く、2%の粘土付の集合体 しているものも一部。
44					✓b	✓iv	✓c	γ	2	33	13		
	45												

42.5  
4.4



# 基盤岩コア観察カード

記事・破砕性状・詳細スケッチ等

標尺 (45 m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分					ROD	最大コア長	岩級区分	破砕度区分
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化	変質				
	0.5	45.66			b	IV	c	γ	2			CM	
	46	46.14			c	V	d	δ	3	12	12	CL	
	0.5												
	47		Gp	25R 1/2 明褐色	b	IV	B	γ	2	21	11	CM	
	0.5	47.58			c	V	d	δ	2			CL	
		47.77											
	48									11	11		
	0.5	48.61			b	IV	B	β	2			CM	
	49									6	6		
	0.5				c	V	c	δ	3			CL	
	50									0	7		

45.00 ~ 45.66 m : CM  
 ・45.00 ~ 45.40 m に 80-90° の高角度割れ目が連続。交差する割れ目の一部は高角度割れ目と一致している。  
 ・45.41 ~ 45.50 m、割れ目が交差。一部が 5 ~ 20% に片状化。粘り強さは低い。

45.66 ~ 46.14 m : CL  
 同様に割れ目には細片化 ~ 砂状化が認められる。  
 ・45.96 m 以下は硬質「C」の硬質岩質が主。少量の軟質岩質も粘り強さは低い。

46.14 ~ 47.58 m : CM  
 硬質「C」の多量長石の白濁化が認められる。  
 割れ目挟持物はほとんど分布しない。  
 47.00 ~ 47.23 m 以下は割れ目割れ目岩質の一部が軽微なマンガン酸化が認められる。

47.58 ~ 47.77 m : CL  
 35 ~ 40% 割れ目が多。20% 割れ目に厚さ 2-5% 程度砂状化 ~ 細片化。

47.77 ~ 48.61 m : CM  
 硬質「C」の長石の白濁化が認められる。一部は低角度の低い割れ目を含む。  
 割れ目挟持物は分布しない。

48.61 ~ 50.50 m : CL  
 硬質「C」と硬質「D」が交互に分布する。  
 容易層の低い割れ目 + 中層割れ目が多々含まれている。  
 割れ目には厚さ 10% 程度砂状化 ~ 砂状化の進んだ部分を含む。  
 ・48.61 ~ 50.50 m は硬質「D」主体で、48.80 ~ 49.40 m 厚さ 15%、50.10 m、35% 厚さ 30% 程度の砂状化 ~ 細片化の進んだ部分も認められる。



# 基盤岩コア観察カード

記事・破砕性状・詳細スケッチ等

標尺 50 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分					最大コア長	岩級区分	破砕度区分
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化	変質			
05	50.56				✓ c	✓ v	✓ c	δ	3			
					→	x	x	x	x		C <sub>L</sub> ✓	
51	51.76		Gp	7.5YR 7/2 明褐灰	✓ c	✓ v	✓ c	δ	3	0	4	
					x	x	x	x	x			
05					✓ c	✓ v	✓ c	δ	3			
52	52.00		Gp		x	x	x	x	x	0	4	
					✓ c	✓ v	✓ c	δ	3			
	52.32				x	x	x	x	x			
05					✓ c	✓ v	✓ c	γ	2			
	52.75				x	x	x	x	x			
53	53.10				✓ c	✓ v	✓ c	δ	3	0	6	
					x	x	x	x	x			
05				7.5YR 7/3 赤褐色	✓ c	✓ v	✓ c	δ	3			
					x	x	x	x	x			
	53.85				✓ c	✓ v	✓ c	δ	3	0	6	C <sub>L</sub>
54					x	x	x	x	x			
	54.31				x	x	x	x	x			
05					✓ c	✓ v	✓ c	δ	3			
					x	x	x	x	x			
55					✓ c	✓ v	✓ c	δ	3	0	5	

50.00 ~ 50.42 m 20°前後の微細な片状割れ目が放射状に分布し、互に連続する。この割れ目はハニシの層状で合着したものである。

50.56 ~ 51.16 m は硬さ「D」主体で、30 ~ 50割れ目が多く割れ目幅は厚さ2 ~ 3mmと薄く、砂状部はほとんどない。粘土質の上下部には軽微な酸化（赤褐色）あり。

51.16 ~ 52.00 m は硬さ「C」主体。51.35 ~ 51.64 m 間は割れ目が交差し、交差部は粘土質の砂状部が充填されている。粘土質の少量存在する。

52.00 ~ 52.32 m 10 ~ 20mm 硬さ「C」の粘片と粘片同様の粘土砂状部がある。

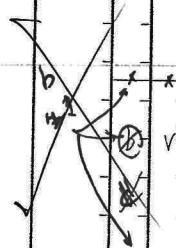
52.32 ~ 52.75 m 粘土の白濁化が著しい硬さ「C」と硬質。一部で硬さ「B」も含まれる。一部には高濃度の低割れ目も存在する。

52.75 ~ 53.10 m 粘片自身の硬さ「B」と軽微な酸化あり。一部で硬さ「C」も残存。

53.10 ~ 53.82 m 粘土質の低割れ目が多く、一部で粘土の白濁化（赤褐色）あり。割れ目の一部は砂状化し、粘土質の充填が多い。色調は「赤褐色」帯理的に存在する。

53.85 ~ 54.31 m 間は硬さ「B」に近い、粘土質の鉄質粘土がほとんど分布する。

54.35 ~ 54.59 m 割れ目の中に粘土質の一部が軽微な酸化（赤褐色）あり。粘土質の存在。



コア  
下部  
↓

# 基盤岩コア観察カード

記事・破砕性状・詳細スケッチ等

標尺 55 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	細区分					最大コア長 ROD	岩級区分	破砕度区分
				色調	割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化			
55	55.00			25YR 7/3 灰褐色	✓	✓	✓	δ	3		
56	55.82				x	x				3	
	56.69			25Y 7/2 灰褐色	✓	✓	✓	γ	3		
57	56.72				x	x				3	
	57.29		Gp	10YR 6/2 灰黄褐色	✓	✓	✓	δ	3		
	57.72				x	x				3	
58	58.51			25YR 6/2 灰褐色	✓	✓	✓	δ	3		
	58.89				x	x				3	
	58.94				x	x				3	
	58.98				x	x				3	
	59.07				x	x				3	
59	59.09				x	x				3	
	59.75			25YR 6/2 灰褐色	✓	✓	✓	δ	3		
	59.89				x	x				3	
60	60.00				x	x				3	

55.00 ~ 55.55 m: 割れ目の砂状化の箇所が粘土に  
はさまれ割れ目が多い。

55.00 m: 25Y 厚2.5~10%の淡黄色粘土に  
はさまれ、粘土面下  
に厚2.0%の砂状部付す。

55.82 ~ 56.69 m  
割れ目が狭い分布は少ない。  
56.00 ~ 56.30 mの間は73~90°の伸縮の高度割れ目  
は存在し、下部は砂状部が認められ、  
56.00 ~ 56.30 mの間は73~90°の伸縮の高度割れ目  
は存在し、下部は砂状部が認められ、

56.69 ~ 57.29 m: 破砕帯 (主断面56.72 m)  
56.69 ~ 56.72 m: HJ  
上端30°の割れ目、下端31°の割れ目に連続、中10%硬さ  
の主体の岩片と岩片間の一部は砂状部、粘土化部が認められ、  
粘土混じり岩片状、主断面は平行に平行に平行に平行に  
微細割れ目分布。色調は淡黄(2.5Y 7/2) ~ 黄灰(2.5Y 6/2)、厚20%。  
56.72 m: Hc-1  
31°の上下端は連続的に連続、41%の石英粒と粘土に(5%以下)  
含む軟質粘土(砂)色調は淡黄(2.5Y 6/2)、厚10%。

57.29 ~ 57.72 m: D  
割れ目の砂状化の粘土の一部は砂状部が認められ、  
割れ目の一部は砂状部。

57.72 ~ 58.51 m: C2  
57.72 ~ 58.00 m: 57.00 ~ 57.02 mは20%の鉄染に付、  
58.51 m以深は20%の鉄染に付、鉄染部は点状。  
58.68 m: 10%幅1~3%、58.82 m~45%幅7%の石英粒分布

58.89 ~ 59.08 m: 破砕帯 (主断面58.98 m)  
58.89 ~ 58.94 m: HJ  
上端20°の割れ目、下端25°の割れ目に連続、20~30%の粘土に  
割れ目の砂状化、岩片間の一部は淡黄~灰褐色の軟質粘土に  
はさまれ、硬さE、主体の粘土混じり岩片状に付、色調は淡黄(10YR 6/2)、厚40%。  
58.94 ~ 58.96 m: Hb  
25°の上下端は連続的に連続、φ2.4%の石英粒、φ5%の硬さE、  
岩片に20~30%含む半割れ目状の「軟質粘土」割、色調は淡黄  
黄褐色(10YR 7/2)、厚2.5%。  
58.96 ~ 58.98 m: Hc-2  
25°の上下端は連続的に連続、φ2.3%の石英粒、硬質岩片は5~10%含む  
軟質粘土(砂)、色調は淡黄(10YR 6/2)、厚2.5%。  
58.98 ~ 59.07 m: C2  
58.98 mは鉄染に付、鉄染部は点状。  
59.09 ~ 59.75 m: 破砕帯 (主断面59.69 m)  
59.69 m: Hc-1

↑  
P  
部分  
↓  
55  
56  
57  
58  
59  
60

# 基盤岩コア観察カード

記事・破砕性状・詳細スケッチ等

標尺 60 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分					最大コア長 ROD	岩級区分	破砕度区分
					割れ目状態	コアの形状	コアの種ま	風化	変質			
	59.69 ~ 59.75 m			25YR 6/2 灰褐	✓ b	✓ IV	✓ C	✓ Y	2	✓ 5	✓ CM	52.22下端の連続的に連続。石英粒、片はほとんど含まない粘質粘土(0.5%)。色調は黄褐(10YR 5/6)。厚さ1.7m
	59.75 ~ 60.00 m									✓ 5		上端5%、下端37.0%時に連続的に連続。φ5~20%の硬質2種に粘質片と粘片1割の砂状部がある。「砂泥質粘片状」砂。粘土は分布不均。色調は10YR 5/6 (7.5YR 5/6)。厚さ40~60%
	60.00 ~ 61.40 m									✓ 5		59.75~60.00 m: CL 割れ目状物の分布は少ない。
	61.40 ~ 61.67 m			25YR 6/3 灰褐	✓ c	✓ V	✓ D	✓ δ	3		✓ CL	60.00~61.40 m: CM 粘質度の低い割れ目で中層割れ目と多く含む割れ目の存在物は少ない。 粘片と粘質の一部は軽微なマクロン鉄染を受け。
	61.67 ~ 62.23 m		GP		✓ b	✓ IV	✓ C	✓ Y	2	✓ 3	✓ CM	61.40~61.67 m: CL 割れ目等に砂状化の道む。 61.67~61.93 m: マクロン鉄染はF1黒褐色化あり。
	62.23 ~ 64.25 m			25YR 6/2 灰褐	✓ c	✓ V	✓ D	✓ δ	3			62.23~62.93 m: CM 粘片の一部は硬質の硬「B」も含む 割れ目存在物は少ないが軽微なマクロン鉄染を受け、交代は少ない。
	62.93 ~ 63.04 m				X					✓ 5	✓ CL	62.23~64.25 m: CL 硬「D」と「c」が繰り返して分布する。 全体に割れ目に砂中粘片状物の存在物は多い。粘質度0.5%。 硬「D」の間には割れ目等に砂状化の粘片状物も分布する。
	63.04 ~ 64.17 m				✓ c	✓ IV	✓ C	✓ Y	2			62.93~62.93 m: 粘片の一部は硬質の硬「B」も含む 粘片と粘質の割合は約20%。粘片は粘片状物。
	64.17 ~ 64.52 m				X							63.04~63.04 m: 30%割れ目と厚さ5~15%の粘片状物を受け。 63.04~64.17 m: 粘質「c」の粘片状物硬「B」も多く含む
	64.52 ~ 64.72 m				✓ c	✓ IV	✓ C	✓ Y	2			64.17~64.52 m: 粘片と粘質の割合は約20%。粘片は粘片状物。 粘質度は明瞭に粘質(2%)
	64.72 ~ 65.61 m			25YR 6/4 灰褐	✓ b	✓ IV	✓ C	✓ Y	2	✓ 4	✓ CM	64.52~65.61 m: CM 64.72 m: 粘片と粘質の割合は約20%。粘片は粘片状物。 粘質度は明瞭に粘質(2%)

調査名

孔番・深度

H27 B-3 (65 ~ 70)

観察日

# 基盤岩コア観察カード

記事・破砕性状・詳細スケッチ等

標尺 65 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分					最大コア長	岩級区分	破砕度区分	
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化	変質				
05	65.39		Gp	2.5YR 7/4 1.5の橙	✓	✓	✓	Y	2	0	7	CM	<p>65.19 m. 30° 割れ目厚 10mm 程度で 酸化進む。薄い砂状部は 2 ほど。</p> <p>65.34 m. 35° 割れ目厚 2.5% の石英質部で 石英 浸染状に 緑泥石化。上部は 20mm 程度の 酸化は 伴わない。</p> <p>65.57 m. 35° 割れ目厚 20% の 砂状化 ~ 4.5% 細片化。</p> <p>65.61 m. 35° 割れ目厚 2% 以下 厚は 堅硬化 あり。</p>
	65.61	2.5YR 6/2 灰褐		X	X	X	X						
66	66.25		Gp	2.5YR 6/3 1.5の黄	✓	✓	✓	Y	2	0	7	CM	<p>66.09 m. 55° 割れ目厚 10mm 程度で 酸化進む。上部は 20mm 程度の 酸化は 伴わない。</p> <p>66.37 ~ 66.40 m. 30° 割れ目厚 30 ~ 40% 浸染状に 緑泥石化。下部は 砂状部 酸化は 伴わない。</p> <p>66.39 ~ 68.06 m = C2</p> <p>割れ目厚 10mm 程度の 浸染物が多い。一部は 割れ目厚 10mm 程度の 酸化は 酸化部 あり。</p> <p>高角度の 低角度の 風化 割れ目厚 10mm 程度の 浸染物が多い。</p>
	66.39												
05	67.00		Gp	2.5YR 7/2 明褐灰	✓	✓	✓	δ	2	0	9	C2	<p>67.12 m. 55° 割れ目厚 5% 程度の 砂状部 ほど進む。割れ目は 褐色化 あり。</p> <p>67.30 ~ 67.70 m. 60 ~ 80° の 高角度 割れ目 10mm 程度で 40% 前後で 浸染化 あり。上部は 厚 2 ~ 3% 砂状化 あり。</p>
	67.18												
68	68.06		Gp	2.5YR 7/2 明褐灰	X	X				0	6	D	<p>68.06 ~ 68.93 m = D</p> <p>10mm 程度の 砂状化 あり。厚 10 ~ 20% 程度で 浸染物 あり。上部は 厚 2 ~ 3% 砂状化 あり。</p> <p>68.40 ~ 68.60 m は 浸染物 あり。</p> <p>68.67 m. 30° 割れ目厚 15mm 程度の 浸染物 あり。上部は 厚 2 ~ 3% 砂状化 あり。上部は 厚 2 ~ 3% 砂状化 あり。</p>
	68.60												
05	68.71		Gp	2.5YR 7/3 1.5の橙	✓	✓	✓	ε	3	0	2	C2	<p>68.93 ~ 70.10 m = C2</p> <p>30° 前後の 割れ目 あり。割れ目厚 10mm 程度の 浸染物 あり。上部は 厚 2 ~ 3% 砂状化 あり。上部は 厚 2 ~ 3% 砂状化 あり。</p> <p>厚 1% 程度の 浸染物 あり。上部は 厚 2 ~ 3% 砂状化 あり。</p> <p>砂状化 進む部分には 浸染物 あり。</p>
	68.93												
69	69.95		Gp	2.5YR 7/2 明褐灰	X	X	X	δ	3	0	4	C2	<p>69.20 ~ 70.10 m. 一部は 割れ目厚 10mm 程度の 浸染物 あり。上部は 厚 2 ~ 3% 砂状化 あり。</p>
	69.95												
70	70.00												

調査名

孔番・深度

427B-3 (70 ~ 75)

観察日

# 基盤岩コア観察カード

記事・破砕性状・詳細スケッチ等

標尺 70 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分				ROD	最大コア長	岩級区分	破砕度区分
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化				
	70.10				割れ目状態: X	コアの形状: V	コアの硬さ: E	風化: Y	変質: Z			C L
0.5												
71				2.5YR 7/2 明褐灰	割れ目状態: V	コアの形状: V	コアの硬さ: E	風化: D	変質: F	0	2	D
0.5												
	71.72				割れ目状態: X	コアの形状: X	コアの硬さ: X					
72			Gp		割れ目状態: V	コアの形状: D	コアの硬さ: D	風化: D	変質: 3	0	2	C L
0.5												
	72.65				割れ目状態: X	コアの形状: X	コアの硬さ: X					
	72.93				割れ目状態: V	コアの形状: E	コアの硬さ: D	風化: D	変質: 3	0	3	D
73					割れ目状態: V	コアの形状: E	コアの硬さ: D	風化: D	変質: 4			
	73.11				割れ目状態: V	コアの形状: E	コアの硬さ: D	風化: D	変質: 4			
	73.30				割れ目状態: V	コアの形状: E	コアの硬さ: D	風化: D	変質: 3			
0.5					割れ目状態: X	コアの形状: X	コアの硬さ: X					
74				2.5YR 6/2 灰褐	割れ目状態: V	コアの形状: D	コアの硬さ: D	風化: D	変質: 3	0	5	C L
0.5												
75										0	5	
	75.00											

70.10 ~ 71.72 m : D  
 風化と変質と著しく軟化しており、岩組織と割れ目は残存している。  
 近づくほど「D」の岩片が増える。約 30 m 以上深さで岩片量多くなる。

71.72 ~ 72.65 m : D  
 20.17 ~ 20.20 m : 25°の割れ目、マクロン脈状に分布している。下盤側厚さ10%の硬化した緑泥石化部がある。  
 72.20 ~ 71.30 m は粘土化部、砂状化部と厚さ1%の粘土化部を網状に分布する部分がある。

72.65 ~ 73.30 m : D  
 71.30 m 以上は硬さの岩片と変質部の粘土化・砂状化部がある。部分的に1~2%の石英と20%の磁鉄鉱による点状色がある。

73.30 ~ 74.48 m : D  
 72.72 ~ 72.76 m : C L  
 10~20%の硬さの岩片あり。一部の岩片は粘土化・砂状化部がある。  
 全体の密度の低い割れ目の中層割れ目が多く、1.2-の打撃で容易に細砕化する。

74.48 ~ 75.00 m : D  
 72.65 ~ 73.30 m : D  
 72.93 ~ 73.11 m は変質と岩組織と割れ目は消滅し細砕化している。  
 上記以外には岩組織と割れ目の一部が残存する。また硬さの岩片の一部が残存する。

75.00 ~ 76.23 m : C L  
 73.18 ~ 73.19 m : 20°の割れ目に厚さ10~15%の「D」の脈状に分布している。  
 73.30 ~ 74.23 m : C L  
 一部で硬さ「C」の岩片を含む。全体の密度は軟化の侵入による硬さ「D」の岩片主体。  
 密度の低い割れ目の中層割れ目約10%前後で密に分布する。

76.23 ~ 77.48 m : D  
 74.29 ~ 74.48 m : 20~30°の割れ目に粘土化と20%の磁鉄鉱があり、細さの密度の低い割れ目も数多くある。  
 77.48 ~ 78.04 m : 25°の割れ目厚さ約20%の軟化部。

78.04 ~ 79.29 m : D  
 78.04 ~ 79.29 m : 20~30°の割れ目に粘土化と20%の磁鉄鉱があり、細さの密度の低い割れ目も数多くある。

79.29 ~ 80.00 m : D  
 79.29 ~ 80.00 m : 硬さ「C」の主体と硬さ「D」の密度の低い割れ目も数多くある。



調査名		孔番・深度		H27 B-3 (75 ~ 80)		観察日					
標尺 75 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	細区分				最大コア長	岩級区分	破砕度区分	<h3>基盤岩コア観察カード</h3> <p>記事・破砕性状・詳細スケッチ等</p>
				色調	割れ目状態	コアの硬さ	風化				
75											<p>75.05 ~ 75.56 m 割れ目の一部に幅1~2%の白色軟質粘土の脈状に付着する。</p> <p>75.46 m 0°幅3~5%の硬質部が斜交割れ目によって連続する。粘土質部の劣化は伴わない。</p> <p>75.80 ~ 75.87 m コア42-ブ31上層時に取れた10%前後の深状コアコア。</p> <p>76.11 ~ 76.23 m 10~20°低角度割れ目が多い。一部は白色粘土(幅0.5%)に付着。</p>
76											<p>76.23 ~ 76.59 m: D</p> <p>76.41 m 以下は3~5%の細粒粘土粘土化部。</p> <p>76.41 m 以下は大部分が割れ目(2%)。1日割れ目によって、マーンが連続的に分布する。</p> <p>76.59 ~ 76.65 m: Hb</p> <p>66.59 m: Hc-1</p> <p>47°上層部時に連続的に連続。9%石英粒と粘土(5%以下)を含む軟質粘土(粘土)。色調は明黄褐色(25Y 7/6)。厚1mm</p> <p>76.59 ~ 76.65 m: Hb</p> <p>上層部時に下層部時に連続的に連続。マーン結核は黒色化した4~2%石英粒。9~10%粘土化部と硬質部(20~30%含む軟質部・硬質粘土)を呈する。主断面方向とは平行方向に割れ目0.4%分布。色調は灰白(2.5YR 7/1)~灰白(2.5YR 7/5)。厚240~50mm</p> <p>76.65 ~ 76.89 m: HJ</p> <p>上層部時に下層部時に連続的に連続。9~10%硬質部と粘土化部と中間の粘土化部が分布。粘土質(高片状)を呈する。76.70 mと76.78 mに主断面と平行方向にそれぞれ55°、33°の断面(5%)が分布。一部はマーン結核付着。</p> <p>色調は灰白(2.5YR 7/4)~灰白(2.5YR 7/2)。厚240% (27号)</p>
77			Gp								<p>76.89 ~ 77.15 m: C</p> <p>硬質部が片状主体で硬質部が部分的に硬質部も含む。割れ目には粘土化と劣化が進行。特に破砕帯直下の76.89 ~ 77.00 mで粘土化が進行している。</p> <p>割れ目は30~40°の非線形なものが多い。一部は消滅しているものもある。</p> <p>10~20°の高角度系は主として、急角度の低い割れ目が多い。</p> <p>77.50 ~ 77.65 m. 10%前後の大型の石英結晶が点在。</p>
78											<p>77.09 ~ 77.77 m 9~10%細粒粘土・粘り状粘土</p> <p>77.77 ~ 77.85 m 硬質部</p> <p>77.85 m 以下は硬質部粘土化部が分布する。</p> <p>77.15 ~ 77.50 m: D</p> <p>主として変質による粘土化が進行。劣化(粘土)。</p> <p>一部は4~20%程度の硬質部が片状に分布。粘土化に伴って連続的に粘り質と割れ目。一部は消滅する。</p> <p>割れ目は10~30°と低角度系が連続</p>
79			Gp								<p>77.85 ~ 78.05 m: Hb</p> <p>2.5YR 7/6 明褐色</p>
80											<p>78.05 ~ 78.15 m: D</p> <p>2.5YR 7/3 灰白褐色</p>

75  
76  
77

1  
0



調査名

孔番・深度

H27 B-3 (80 ~ 85)

観察日

# 基盤岩コア観察カード

記事・破砕性状・詳細スケッチ等

標尺 p0 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分					最大コア長	岩級区分	破砕度区分
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化	変質			
	05											
81				2.5YR 7/2 明褐灰						0	5	
	05											
	81.75				✓	✓	✓	δ	4			
	81.95				✓	✓	✓	δ	4	0	4	
82			Gp	10YR 7/6 明黄褐								
	05											
	82.39											
	05											
	82.94			2.5YR 7/2 明褐灰						0	3	
83												
	05											
	83.30											
	05											
	83.50			10YR 7/6 明黄褐								
	05											
	84.05			2.5YR 7/2 灰褐						0	3	
84												
	05											
	84.55											
	05											
	84.95											
85												
	05											
	85.25											

80.14 ~ 80.31 m 幅1%、52 10~20%の細粒状の200μm  
が多数存在。

80.36 m 以下は、2個「E」の岩片と、岩片間の粘土化部  
が存在。

80.36 ~ 81.68 m 間は割れ目岩片の一部が200μm以下  
に砕けた。

81.70 ~ 82.40 m 岩片間の隙間の一部が風化・褐色化  
している。

81.90 ~ 82.40 m、p1-2の表面が200μm以下に  
石英粒(石英斑晶)の黒色点状存在。

83.30 ~ 83.74 m 以下「E」の硬質岩片が多数存在。

83.30 ~ 83.50 m : 岩片間の砂状~粘土化部が風化して  
褐色化している。

84.06 ~ 84.54 m 10~20割り程度に粘土化・褐色化が  
出現して「D」岩片が主体。

84.54 ~ 84.71 m 砂状化の粘土(20)、軟質粘土  
層、岩片部分の硬質、岩片間の隙間(20)。

# 基盤岩コア観察カード

記事・破砕性状・詳細スケッチ等

標尺 85 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	細区分						最大コア長 ROD	岩級区分	破砕度区分
				色調	割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化	変質			
05	85.03		GP	25YR 4/6 灰褐	✓	✓	✓	δ	4	0	3	C <sub>2</sub>
	85.61			25YR 4/3 灰褐	✓	✓	✓	δ	3			
05	85.70		GP		X	X				0	3	D
	86.50			25YR 5/1 褐灰	✓	✓	✓	δ	4			
05	87.18		GP			X				0	2	D
	87.52			10YR 6/3 黄褐色	✓	✓	✓	ε	3			
05	88.18		GP			X	X	X		0	3	D
	88.52				✓	✓	✓	ε	3			
05	89.00		GP			X	X	X		0	3	D
	89.36				✓	✓	✓	ε	3			
05	90.00		GP	25YR 7/2 明褐灰						0	3	

85.03 ~ 85.61 m : C<sub>2</sub>  
 一部に硬土「c」が混在する。割れ目には砂状化がみられる。  
 85.61 ~ 85.70 m 間は割れ目の砂状化が認められる。  
 85.70 ~ 85.80 m 間は緑泥石化し、淡緑灰色を呈する。  
 9.5 m 以下の微細な変質帯を伴う。

85.61 ~ 91.35 m : D  
 硬土「c」が混在し、割れ目の粗粒化・砂状化部が認められる。  
 全体として軟化が著しい。

86.50 ~ 87.18 m. 40 ~ 50 割れ目等に硬土「c」が混在し、割れ目には粗粒化・砂状化が認められる。割れ目には細粒化が認められる。9.1 m 割れ目には粗粒化が認められる。

87.18 ~ 91.35 m は、全体的に砂状化が認められ、割れ目の硬土「c」が混在し、「砂状化」が認められる。  
 1975. 87.18 ~ 87.52 m の基質部は2314である。

88.18 ~ 89.00 m は、割れ目には硬土「c」が混在し、割れ目の粗粒化・砂状化が認められる。

89.00 ~ 90.14 m は、2層に相対的 岩片の採取した基質に相対的砂状化・粗粒化部は掘削時に発見（土相と推定した）。